

刊夕日五十月一十

常磐新報

定価一紙一円 一月五拾五銭 郵費五拾五銭
廣告料五拾五銭 印刷料一円五拾五銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社
電話 六三〇番



今昔同軌

真繼雲山

疑獄とやらの名物を背景とする小数の資本家を大官と黨人とを別にして生活の不安を感じない國民が現在果たして何ほどあらうか、今は火葬装置が完備してゐるから屍を途上にこそ見受けないうが、動く屍、生る屍は道途に累々としてゐるのではないか。

今や中産以下の大多数の弱小國民は、増税の重壓と不景氣風の紅蓮の眞只中において、職あるものは職を失ひ、業あるものは業を廢し、小數資本家の術數にて物價は不自然に釣り上げられ、賣る人ばかりで買ふ者はなく、就學の子弟は學を廢し、家資は分散し、妻子は流離し痛恨の涙は鴨川の水とも流るゝであらう、増すものとは兇行沙汰と一家心中だけである、巷の屍四萬二千三百と謳はれた治承、壽永の昔に比して凄慘果たして何れであらうか、飛行機ラデオの無かつた壽永のむかしは人々しづかに宿命の流れを詠嘆したが、今は坐して亡びるに任せず人々無形の牙を磨ぎ、劍をふくみて地主、大官、資本

家、黨人を呪詛する兇兇な人心は壽永治承の昔に比して勝るとも劣るものではない。

昔は人々世を厭ひ、危きを謝し、圓頂黒衣して山林に通れたが今は所有權にいふ掟厳しく、地に權なき無産の徒には一坪といへども

ノート

もし御飯に心が出来たと思つたら釜のはだ内側へお酒をふつて弱火にかけ、暫く蒸しておきますとふつかりとした美味しい御飯になります

滅多に他人の山中に入ることとを許されず、遁世の道さへ斷られた現代人が、檻中の瘠虎の如くに猛り狂うて而かも甲斐なきこととさうたてきかな。

我れに大乘菩薩の誓願あれど及ばず、及ばぬまでも

- 二明日の献立
- 【朝】うどん粉 つまみ入れ せり 大根 みそ汁
 - 【晝】魚の煮付 あられ生姜
 - 【晚】つみみ玉子 小かぶ うすくづかけ おろし生姜

セメテ生ある間こそ佛恩報謝なれと精進してゐるの

笑話

社長「何だ君は昨日休んで野球見物だろう、其様じゃ困るじやないか！」社員「いや、僕、野球なんか見ません、頭が痛かつたんです」社長「うそ云ひ給へ、僕はチャンと見てたよ」



常磐歌壇

小津 牧風
錆び釘の悲しみに似てひとり寝のころさみしく夜のしらみきぬ
なぎさなる小石光りてほろ酔の歩み止める海のしづけさ
ゆくりなく活動小屋の人混みに逢ひみし人の頬こけてをり
頬こけし女の悲劇にながしころに浮びまたいねがす

セメント

壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス

磐城セメント株式会社
代理店 西村屋薬舗
平町二丁目(電三)

かまぼこ

昭和三河産業博覽會 金牌受賞
三河産業博覽會
昭和産業博覽會

お惣菜用

さつま揚 吉原揚

平町一丁目

電話一四一番

高級貸切

不二タクシー

電話・32

吸入用酸素

純度99%

度量衡器
モノサシ
マ ス
ハカリ

体温器
寒暖計

関内薬局

電話四〇番

學生服賣出

倉庫に取揃へ豊富な丈夫な黒い学生服を豊富に提供

小學用(長ズボン付) ¥0.80
全品特製品 ¥2.00
中學用特製品 ¥2.90

ふかや洋服店

平町二丁目 電話203

造花

靈柩自動車御用達

新らしく安い

橋本屋

平町新川町
電話一六三番

共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙
院址 平町

内科	醫學博士 石山謙
小兒科	醫學博士 佐久間重
外科	醫學博士 桂久
喉科	醫學博士 有馬雄
皮膚科	醫學博士 五十嵐
産婦人科	醫學博士 佐久間
X光線科	醫學博士 石山謙
衛生試驗所	醫學博士 石山謙
藥局	藥劑士 高石山

診療時刻 午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

磐城共濟會

電話六四一番

突如襲來した

暴風雨の跡惨たり

消防組や青年團が出勤

不眠不休の罹災者救護

遂に死傷者を出す

昨十四日早朝降り出した雨は俄然午後に至り風勢加はり稀有の大暴風雨と化し夜に入つては一層猛威逞しく夏井川、鮫川、好間川、藤原川等を始め大小河川の氾濫出郡に至る處に濁流渦巻き物凄く洪水の海と化し逆巻く激流に稲束の流失家屋の倒壊、漁船沈没、道路堤防の欠壞等々被害は數へ切れず遂に死傷者を出すに至つた此れより先小名濱測候所からの警報に接した平、四倉、植田の各警察署では郡内各町村の消防組、火防組、青年團と協力して徹夜非常警戒に努むる一方罹災者の救護に全力を挙げ必死の努力を傾注し今朝午前六時頃からさしもの大暴風雨も次第に威力が弱はり慘憺たる被害の跡に秋の薄陽がさして凄惨の氣が漲つて居る

大敷網の損害 五萬圓

漁濱中の被害は

豊間が最も甚大

石城郡内の漁濱中豊間村の被害最も甚大と見られて居るが同村の發動漁船中
 △遠藤友之丞所有船長鈴木金治△四家嘉七所有船長四家一雄△遠藤藤三郎所有船長四家大三郎△鈴木喜八所有船長鈴木喜八の四隻は激浪に押流されて

の救援作業に

從事中

甚吉(四)は顔部に重傷、鈴木源吉は胸部に負傷、大敷網の漁夫甚吉及び遠藤キヨ(二)等も瀕死の重傷を負ふ

電話電信の被害

實に數萬圓に及ぶ

平局が夜を徹して復舊工事

平郵便局の市内電話七十餘線に亘つて故障を生じ通話不能となつた外市外電話並びに電信は全部不通に陥つたので同局では徹夜全力を挙げて復舊作業に努めた結果電話線は福島仙臺線を今朝十時頃復舊したが水戸東京線は未だ復舊に至らず福島經由電信を以つて東京線の連絡を計つて居る此他電柱の倒壊等目下調査中であるが損害數萬圓に及ぶと見られて居る

稲束

流出多數

平土木監督所調査に依る夏井川の増水に實に十七尺餘

赤井驛に 浸水して

列車一時不通

今朝五時赤井村地内夏井川の大氾濫に依り平郡線赤井驛構内の浸水二尺餘に達し赤井、小川郷間鐵道線路も同様二尺以上の浸水を見た爲め列車の運轉不能に陥り同日午前五時四十二分平驛發郡山行列車は赤井以北の運轉を休止同驛から折返し郡山發平着列車は小川郷驛まで折返し運轉幸じて連絡してゐたが同日午前九時四十分復舊した

轉覆流失相次ぐ

小名濱築港の損害

小名濱築港内に淀泊中であつた千葉縣漁船興福丸は激浪の爲轉覆したが乗組員六名は無事同町町の重運丸が沖合に流失し目下磐城丸が救援に出勤中であるが此の外築港事務所使用船二隻流失行衛不明である

町村被害

湯本町

三函山口才一方では昨夜屋根板五坪を強風に吹きむかれ同町天王崎練瓦工場長方にも四坪を破損した外同町第四部消防組貯水他は堤防三間餘潰壞等市内の損害五百圓に達したと

内郷村

峯根地内磐炭社宅では床下浸水卅九戸同村町田には卅五戸の浸水また同村堀坂地内では住家一戸並に新築中の非住家一戸が倒壊した外同村小島地内では稲把の流失するもの五千把と稱されて居る

磐崎村

湯長谷地内藤原川が一丈二尺の増水を見た爲め家屋の浸水卅戸に達したが同河川護岸の崖六間餘は強雨に見舞れて昨夜十一時頃崩潰したが幸ひ人畜に被害はなかつた

好間村 非住家倒

記各町の床上百餘戸床下四百餘戸に達したが現在までの調査に依れば人畜の死傷はない

平窪村

中下兩部落では昨夜來八十俵以上に及び稲把を流失したが鹿島村走熊久保兩部落にても五十俵に相當する流失があつたと

江戸前料理 會堂

紅葉狩にはぜひ錦水の折詰辨當を御供させて下さい

出前！迅速！

錦水

電話四五四番

内科・小兒科・花柳病科 藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町
電話五〇七番

物質 一般

各種債券

三井質店

平町四丁目
電話六〇六番

木村外科醫院

平町五丁目橋際
電話三〇九



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓上演
近藤紫雲畫

第二百席 平手造酒

助五郎逃げ出す

助五郎の子分は土間に下りて隅の方の戸を一枚サラリと開き表を見ると長脇差を腰にした者ズツと列んでゐる

子「今晚はお騒々しい事でございます」

と云つたがこれからが騒々しくなる、時に新助が新「助五郎が居るさうだが笹川から人数が出たと知らせる、支度の出来るまで待つてゐてやる」

と云ひながらドカ／＼と土間に入つた、助五郎は庭を前にした八疊の座敷に妾のおくにと寝て居りました、夫も一人や二人とは思へぬ、多人敷来たやうだ、何者かと寝巻の前を掻き合はせ枕元の脇差を取つて出て来た時にこれを見た新助が



新「助が出たぞ」
と云つた、驚いたのは助五郎、バツと一足退つて脇差の鞘を拂つた、同時にドカ／＼と踏み込む笹川方、妾のおくにはこれを見て、大變だよ、皆さん起きて下さいよ」
金切聲で叫んだ、是を耳にしてドカ／＼と二階から

下りて来た七八人、中にも奥州浪人河口伴助と云ふ者が助五郎を後方にしてサア来いと引抜いた、是を見るより平手造酒が正面より斬り付けた、二ツ三ツ合した

が造酒とは業が違ふ、伴助は右の耳の下から咽喉へか

拂つたが梶田は腰を斬られてこれ又倒れた、その折表から飛込んで来たは助五郎の子分成田の甚蔵を始め荒町の勘太、下緒の伊之助、長島の半六、向田の長五郎、外田の佐吉等二十三人、元吉の知らせに依つて親分を助けんものと、これだけが押寄せた、豫て覺悟の笹川方、サア来いと茲で斬合つたがバツツガラガラ、キヤツウムツ斬りやアがつた

な／＼この畜生、斬つたな／＼と、イヤ此家は覆へるやうな騒ぎ時に助五郎は繁藏と渡り合つたがこれは中村左金吾と云ふ劍術の達人

りた、續いて繁藏も飛下り繁「助ッ、覺悟しろ、逃げるな……」
激しく斬附ける、それが爲に又々助五郎斬立てられ、泉水のまはりを傳はり築地塀の下まで来た、此時に助五郎の子分松崎の庄藏が繁藏の後方から斬り付けた早くも身を交し、これを避け

繁「卑怯な事をするな」
と云ひながらサツと拂つた一刀に庄藏は脇腹を斬られてキヤツと云つたがそれへ倒れた、この間に助五郎は築地塀を乗り越えてヒラリ裏手に飛下り南無三逃しては繁藏も同じく塀に登つたが心得ある者として直には下り、是は助五郎が下に待つてゐて下りる所を斬り付けられては避ける事が出来ない、その塀の上より下を見ると助五郎の影も見入ら

分は何うした」
○「どこへ行つたかな、親分助五郎は何うしました」
繁「残念なことをした、助は逃げた……」
と繁藏は垣より下りて元の所へ戻つて来ました。

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院

平町南町
電一七〇

専門
産科
婦人科
花柳病科
柳病科

◎入院應需

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

味覺の秋

骨ごとバリ／＼かじる

……小鳥のつけ焼……

中でウマイのはアオジロ、スズメ……
御酒によし御飯によし——御家庭にも一度御試食を頂ます

鳥 菊

平町南町【電二八六】

内科 難波陸

醫學博士

平町新川端(釜屋新宅向)

電話五〇二番

旅行カバンと毛布

御旅行と散策の秋が参りました。
馬鹿／＼しい最近の値上りを外に格安品を豊富に取揃へました。
毛布と一枚物二枚續き等今が絶好のお買時です……

平 四
ヤルツ
〇四一電